

軍需商會編纂部著

上下等兵士學科教程

追錄第五

(陣中要務令)

東京軍需商會發行

特117

115



始



陣中要務令

大正
3. 7. 20
内交

上下等兵士學科教程

陣中要務令

目次

綱領	一
第一章 部隊間ノ連繫	八
第一節 命令	八
第二節 通報、報告	九
第三節 命令、通報及報告ノ傳達	一四
第四節 文章記述ノ通則	一七
第二章 搜索及諜報勤務	二二

陣中要務令

第二章 警戒勤務……………二五

第一節 通則……………二五

第二節 行軍ノ警戒……………二六

其一 要領……………二六

其二 前衛……………二七

其三 側衛……………二九

其四 後衛……………三一

第三節 前哨……………三二

其一 要領……………三二

其二 行軍前哨……………三二

第四章 行軍……………四七

第一節 通則……………四七

第二節 行軍ノ種類……………四八

第三節 行軍ノ隊形……………五〇

第四節 行軍ノ實施……………五一

第五節 休憩……………五七

第五章 宿營……………五八

第一節 通則……………五八

第二節 舍營……………五九

第三節 露營……………六四

第四節 村落露營……………六七

第六章 行李輜重……………六七

第七章 給養……………六七

第八章 衛生……………七〇

第九章 彈藥補充……………七二

第十章 通信……………七三

第十一章 鐵道……………七四

第十二章 船舶輸送……………七七

第十三章 兵站……………八一

第十四章 憲兵……………八四

第十五章 戰鬪詳報、陣中日誌、留守日誌……………八四

第一節 戰鬪詳報……………八五

第二節 陣中日誌、留守日誌……………八五

上下等兵士學科教程陣中要務令目次終

上下等兵士學科教程

陣中要務令

綱領

- 一、軍ノ主トスル所ハ戰鬪ナリ故ニ凡百ノ事皆戰鬪ヲ以テ基準ト爲スヘシ
- 二、軍ハ軍紀ヲ以テ成ル其消長ハ勝敗ニ由テ歧ル、所タリ軍紀ハ常ニ嚴肅ナラサル可カラス而シテ軍紀ノ要素ハ服從ニ在リ全軍ヲシテ至誠上長ニ服從シ其命令ヲ確守スルヲ以テ第二ノ天性ト爲サシムルヲ要ス
- 三、命令ノ實施ニハ獨斷ヲ要スル場合尠カラス蓋シ兵戰ノ事タル其變遷測リ難ク命令ノ指示情況ノ變化ニ伴ハサル事アリ此ノ如キ場合ニ

陣中要務令

於テハ受令者自ラ其目的ヲ達シ得ヘキ方法ヲ採リ獨斷專行以テ機會ニ投セサル可カラス然レトモ獨斷專行ハ應變ノ道ニシテ常經ニ非サルナリ漫ニ發令者ノ意圖以外ニ脫逸ス可カラス

四、典則ハ運用ヲ待ツテ始メテ其光彩ヲ發揮ス而シテ運用ノ妙ハ人ニ存ス人々宜シク身ヲ以テ責ニ任シ機宜ニ應シ之ヲ活用スヘシ固ヨリ濫ニ典則ニ乖ク可カラス又之ニ拘泥シテ實效ヲ誤ル可カラス

五、軍務ハ多端ナリ是レ各級指揮官ヲシテ各々其任務ヲ分擔セシムル所以ナリ故ニ各級ノ指揮官ハ一般ノ目的ト其ノ任務トニ稽ヘ專ラ心力ヲ職責ノ在ル所ニ竭シ他ノ補助ニ倚賴スル事ナク毅然トシテ其任務ヲ全ウスル事ニ努ムヘシ此ノ如クシテ後全軍ノ協同一致得テ期スヘキナリ

六、統帥ノ要訣ハ軍隊ヲシテ常ニ百般ノ準備ヲ整ヘ命令一タヒ下レハ勇往邁進シテ忠愛ノ至誠精銳ノ技能ヲ發揚シ自ラ信シテ優秀ナル成

功ヲ期待セシムルニ在リ而シテ情況ヲ達觀シテ明斷、果決、敏活ニ處置スルハ又部下ノ自信ヲ鞏固ナラシムル要件トス

七、爲サ、ルト遲疑スルトハ指揮官ノ最モ戒ムヘキ所トナス苟モ之ヲ爲シ之ヲ斷行セハ縱ヒ其ノ方法ヲ誤ルモ尙爲サ、ルト遲疑スルトニ勝ル蓋シ此ノ兩者ノ軍隊ヲ危殆ニ陥ル、コト寧ロ方法ヲ誤ルヨリモ甚シキモノアレハナリ

八、將校及下士ノ一舉一動ハ悉ク部下ノ模範タリ慎マサル可カラス殊ニ劍電彈雨滿目悽愴ノ間ニテ沈著機ニ處シ泰然トシテ動カサルトキハ森嚴ナル威容自ラ外ニ顯ハレハ部下ノ囑望ヲ繫持シ以テ其志氣ヲ作興シ成功ノ因ヲ固ウスルヲ得ヘシ平生修養セサル可カラス

九、軍人ハ廉耻ヲ重ンセサル可カラス廉耻ハ軍人ノ精神ヲ維持スルモノナリ能ク其ノ膽力ヲ補ヒ怯懦ヲ去リ死生ノ地ニ從容タラシム故ニ上將校ヨリ下兵卒ニ至ル迄常ニ此心ヲ保有シ上下共ニ切磋シテ以テ

全軍ノ名譽ヲ發揚スヘシ

十、軍人ハ艱苦缺乏ニ耐ヘサル可カラス常ニ之ニ貫熟スルヲ要ス夫レ陣中勤務ハ艱苦缺乏ニ克ツ者ニシテ始メテ敏活確實ニ之ヲ實施シ得ルモノトス

十一、實敵及危險悲慘ハ平時之ニ親炙スルヲ得ス然レトモ之ニ克ツノ道ハ則チ有リ大節ヲ守リテ君國ニ盡ス所謂軍人精神是レナリ此精神ヲ發揮シテ責ヲ重シ任ヲ竭シ斃レテ後已ム是レ軍人ノ本分ナリ

第一章 部隊間ノ連繫

第一節 命令

第一、命令ハ簡明確切ニシテ且ツ受令者ノ識量ト性質トニ適應セサル可カラス而シテ命令ニハ目的ヲ達スル爲メ受令者ノ自ラ處斷スル能ハサル必要ノ事項ヲ示スヲ要ス

第二、命令ニハ臆測ヲナシ將來ヲ希望シ又ハ之ヲ命シタル理由ヲ示シ或ハ種々未然ノ形勢ヲ舉ケテ一々之ニ應スル處置法ヲ定ムルカ如キハ宜シク之ヲ避クヘシ

第三、作戰命令ハ軍隊ノ作戰行動ヲ規定スルモノニシテ各團隊ノ稱號ヲ冠シ(某師團命令、某旅團命令等)或ハ軍隊區分ニ依リテ成リタル部隊等ノ名稱ヲ冠ス(前衛命令、前哨命令、某支隊命令等)

第四、日々命令ハ軍隊ノ内務、人事、人馬補充、戰場掃除、俘虜ノ取扱、雜役勤務等直接作戰ニ關係セサル事項ヲ規定スルモノニシテ團隊等ノ稱號ヲ冠ス(某師團日々命令、某旅團日々命令、某支隊日々命令等)

第五、命令ハ筆記又ハ印刷シテ之ヲ付與シ或ハ口上若クハ電信、電話等ニ依リ下達スルモノトス

第二節 通報、報告

第六、斥候、前方ニ派遣セラレタル諸隊、警戒隊、各級指揮官及各司令部ハ其ノ上官ヲシテ成ルヘク速ニ且ツ廣ク情況ヲ知得セシメンカ爲メ任務ノ遂行ニ必要ナル範圍内ニ於テ敵情ノ偵知、視察ヲ勉メサル可カラス而シテ其報告ノ送達ヲシテ確實且ツ迅速ナラシムル事肝要ナリ

第七、一、敵ノ行進路

二、部隊殊ニ其歩兵ノ到達シタル地點

三、宿營地

四、陣地及前哨線ノ位置並其兩翼

ヲ速ニ探知スルハ指揮官ノ爲メ特ニ緊要ナル事項トス又某地方ニ於テ未タ敵兵ヲ發見セサル事ヲ知ルモ亦指揮官ノ爲メニ往々緊要トナスコトアリ其他爾後ノ探偵ニ依リテ既往ノ情報ヲ確實ニシ又一定ノ時間中ニ於ケル形勢變化ノ有無ヲ報告スル等ハ大ニ價值アルモノト

ス

第八、報告ノ時機ハ情況ニ依リ一定シ難シト雖モ

一、初メテ敵ヲ發見シタル時

二、有力ナル部隊特ニ歩兵ト遭遇シタル時

三、敵ノ占領ヲ豫想シタル陣地等ニシテ敵ノ未タ之ヲ占領セサル時

四、及某目的又ハ一任務ヲ達成シタル時

等ニハ必ス報告スヘキモノトス

第九、火急ノ場合ニ於テハ直屬上官ニ報告スルト同時ニ更ニ高級ノ指揮官ニモ報告スヘシ又危險ノ迫レル軍隊ニハ先ツ直ニ之ヲ通報シテ後直屬上官ニ報告スルモノトス

第十、地形ニ關スル報告ハ常ニ重要ナル價值ヲ有スルモノトス故ニ報告ニハ其ノ要求ナキ時ト雖モ成ルヘク之ヲ附加スルヲ可トス

第十一、自己ノ狀態及爾後ノ企圖ニ關スル事項ハ上級指揮官ヲシテ其

ノ畫策ヲ適當ナラシメ比隣部隊ヲシテ協同動作セシムル爲メ必要ナルヲ以テ他ノ通報、報告事項ニ之ヲ附加スルノミナラス要スレハ特ニ之ヲ通報若クハ報告スヘシ

第十二、報告ヲ記スニハ

- 一、報告者自カラ目撃セシコトト
 - 二、他人ノ實見セシコトト
 - 三、他人ノ聞知セシコトト
 - 四、又唯推測ニ係ルコトト
- トヲ判然區別シ受報者ノ判斷ニ便ニスヘシ但シ推測ニ係ルコトハ往々受報者ニ意外ノ印象ヲ與フルコトアルヲ以テ常ニ其ノ理由ヲ附記スルヲ要ス

敵兵ニ關スル通報、報告ニハ其兵種員數時刻先頭或ハ後尾等ノ位置及動作ヲ記スコト肝要ナリ又單ニ優勢ナル敵兵或ハ敵ノ大縱隊ト記

シ若シクハ之ニ類似セル漠然タル語句ヲ用フルトキハ誤解ヲ生シ易キヲ以テ勉メテ之ヲ避クルヲ要ス

部下ヨリノ報告ヲ更ニ上級指揮官ニ報告スルニハ必ス原報告發送ノ時刻、地點及發送者ヲ記入スヘシ但シ原報告紙ヲ轉送スル時ハ自ラ點檢セシ時刻ヲ記入シ署名スヘシ

第十三、同時ニ諸方ニ報告スル場合ニハ其ノ報告ニ諸方ヘ報告セシコトヲ記載スヘシ又其報告急ヲ要スルカ爲中間指揮官ヲ省カサルヲ得サル時ハ此ノ指揮官ニハ成ルヘク速ニ別ニ之ヲ報告シ高級ノ位置ニハ既ニ報告セシコトヲ附記スル事緊要ナリ

第十四、要圖ハ概ネ迅速ニ之ヲ製セサルヘカラス故ニ目的以外ニ屬スル不要ナル諸件ハ凡テ之ヲ省略シ單ニ必要ノ符號、事項並關係位置等ヲ記載スルニ止ムルモノトス

第十五、寫景圖及寫真ハ地區地物ノ形狀又ハ築設物構造ノ大要ヲ知得

シ易カラシムルモノトス

第三節 命令、通報及報告ノ傳達

第十六、命令、通報及報告ハ距離ノ遠近ト其他ノ景況トニ從ヒ電信、電話、視號ヲ用ヒ又ハ自轉車、自動車、航空機、乘馬若クハ徒歩ノ傳令ニ依リ筆記、印刷若クハ口上ヲ以テ轉達セラレタル重要ナル命令、通報及報告ハ受領者ニ於テ之ヲ筆記シ且ツ轉達者ノ氏名ヲ附記スルモノトス

第十七、地形險難ナルカ或ハ傳令騎兵缺乏ノトキハ所要ニ從ヒ徒歩傳令ヲ以テ傳令騎兵ニ代ヘ若クハ之ヲ補フモノトス、之カ爲各部隊ハ豫メ脚力强健ニシテ且ツ性質剛膽、敏捷ナル下士兵卒若干ヲ選拔シテ其用ニ充ツルノ準備アルヲ要ス

第十八、徒歩傳令トハ徒歩ニテ傳令ヲ爲スモノヲ云フ

第十九、傳令ノ速度ハ地形ノ難易距離ノ遠近、天候ノ良否、馬匹ノ狀

熊等ニ依リ多少ノ差違アリト雖モ之ヲ概定スルコト左ノ如シ

徒歩傳令

並ニ速歩(一時間約五吉米)

急ハ駈歩トヲ混用ス(一時間約六吉米)

至急ハ唯近距離ニノミ用ユルモノニシテ脚力ノ耐フルニ應シ駈歩トス

第二十、命令、通報、報告ノ發信者ハ傳令ニ對シ確切ニ左ノ諸件ヲ示スヘシ

受信者及其所在地

經路

速度(要スレハ到着時刻)

傳達後ノ處置

而シテ要スレハ經過路ノ要圖若クハ之ヲ記入シタル地圖ヲ與ヘ又敵

ニ關シテ顧慮スヘキ事項ヲ指示スルモノトス

第二十一、傳令ハ途中上官ニ遇フト雖モ其步度ヲ變スルコトナシ

傳令ハ要スルトキハ命令、通報、報告受領者ノ宛名ヲ叫ヒテ其所在ヲ索ムヘシ而シテ其附近ニ在ル者ハ傳令ニ對シ必要ナル告知ヲ爲スヘキ義務アルモノトス

第二十二、通報及報告ハ往々途中ニ於テ他ノ司令部及軍隊ニ知ラシムルヲ適當トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ特ニ傳令ニ諭示スヘキモノトス然ル時ハ傳令ハ途中前兵長、前衛司令官等ニ單簡ニ之ヲ告知スヘシ

第二十三、傳令途中ニ於テ事故ヲ生シタルトキハ速ニ最近ノ部隊ニ交渉スヘシ而シテ各部隊ハ其命令、通報、報告ヲ速ニ送達スル爲メ傳令ニ對シ爲シ得ル限り援助ヲ與フルノ義務ヲ有ス

第二十四、口上ヲ以テ命令、通報、報告ヲ傳フル時ハ傳令ハ出發前並

歸來後其全文若クハ要旨ニ就キ之ヲ復唱スヘシ

第四節 文書記述ノ通則

第二十五、文書ノ記述法ハ爲シ得ル限り簡易ナルヲ要ス

第二十六、文章ヲ單簡ニシ奇異ノ語ヲ避クルハ文意ヲ明瞭ニシ且了解ヲ易カラシムルニ緊要ナルコト、ス而シテ記載ノ後之ヲ復讀シ且ツ受信者ニ於テ如何ニ了解スヘキカラ考察スルトキハ往々字句修正ノ必要ヲ發見シ以テ受信者ノ誤解ヲ減省シ得ヘシ

右、左、前、後、此方、彼方等ノ語ハ其語意分明ニシテ疑ヒサキ時ノ外成ルヘク之ヲ用ヒサルヲ可トス

右側、左側、右翼、左翼、右側衛、左側衛等ノ語ハ敵ニ對スル方向ヲ、行軍縱隊ノ先頭及後尾ナル語ハ行進方向ヲ基準トシテ稱呼ス河川ノ右岸、左岸トハ下流ニ面シテ之ヲ稱呼スルモノトス
編合部隊ヲ部隊號ニ依リ單簡ニ稱呼シ能ハサルトキハ地名若クハ指

揮官ノ氏ヲ以テ命名スルヲ可トス

第二十七、命令、通報、報告等ヲ記スルニハ概ネ通信紙ヲ用フ若シ通信紙或ハ定規ノ用紙ナキ時ニ於テハ手簿ノ紙片等ヲ以テ之ニ代用スルヲ得ヘシ

定規ノ通信紙ヲ使用セサルトキハ發簡者及受簡者ノ氏名若クハ氏官(職)ハ命令等ノ標題ノ前ニ於テ發簡者ヲ下ニ、受簡者ヲ上ニ記シ月日時及發簡地ハ命令等ノ標題下ニ記載スヘシ

命令、通報及報告記述ノ月日時ニハ通常其記述ヲ始メタル月日時ヲ用フルモノトス

第二十八、日ヲ記スルニ方リテハ單ニ明日又ハ昨日等ト記スコトナク明何日、昨何日ト記載スルヲ要ス

同一ノ命令、通報又ハ報告中同一ノ月日ハ誤解ヲ生セサル場合ニ於テハ其列記ノ順序ニ依リテ或ハ之ヲ省略スルヲ得ヘシト雖モ午前若

クハ午後ノ語ハ必ス時刻ニ冠スルヲ要ス

全夜ニ亘ル事件ニシテ夜ノ字ヲ用フルヲ要スルトキハ單ニ某日夜ト記載スヘシ蓋シ夜ハ黄昏ヨリ拂曉迄ヲ稱ス故ニ某日夜トハ其時間翌日ノ拂曉前ニ亘ルモノトス

第二十九、地名ハ殊ニ明瞭ニ記シ且ツ地圖ト同文字ヲ用フルヲ要ス

一地方ニ於テ同一ノ地名アル時若クハ著名ナラサル地名ハ精密ニ記シテ(例ヘハ北部何村或ハ何村ノ東北何吉米ニ在ル何村等)明瞭ナラシムヘシ

字或ハ俗稱ニシテ地圖ニ記載ナキモ之ヲ用フレハ其地點明瞭ナル時又ハ地名實稱ト異ナル場合ニ於テモ必ス先ツ地圖ニ記載シアルモノヲ記シ其ノ下ニ括弧ヲ置キ字或ハ俗稱又ハ實稱何々ト記シ又讀ミ難キ地名ニハ傍訓ヲ附スヘシ(例ヘハ我孫子、飯富等)外國ノ地名ハ極メテ明瞭ナルモノ(例ヘハ北京、上海ノ如シ)ヲ除キ其他ハ通常

我國慣用ノ字音及發音ニヨリ之ヲ記載及稱呼スルモノトス（例ヘハ沙河、營口ト爲シ「サーホ」「インコウ」トセサルカ如シ）道路ハ疑ヒナキ街道（中山道、東海道等）ノ外ハ之ニ關スル著名ナル二箇以上ノ地名ヲ以テ記スヘシ（例ヘハ何村——何村道）某地點又ハ道路等ヲ包含スル地區ノ指示ヲ爲スニ際シ之ヲ包含スルヤ否ヤ疑ハシキ虞アルトキハ地名又ハ道路等ノ名稱ノ下ニ括弧ヲ附シテ「含ム」若クハ「含マス」ト記シ或ハ某地及其附近若クハ道路及其以南等ト記シテ明瞭ナラシムヘシ

第三十、命令、通報或ハ報告中地形ニ關スルコトヲ記載スルニハ地圖ニ依リテ其ノ名稱ヲ指示スルヲ要ス縱ヒ受令者又ハ受報者ノ地圖ヲ攜帶セサルトキト雖モ亦然リトス然レトモ地圖ヲ參照スルニ非サレハ了解ス可カラサル指示ハ受令者又ハ受報者同一ノ地圖ヲ攜帶スル事確實ナル時ニ於テノミ之ヲ爲スヲ得此時ニ於テハ其用ヒタル地圖

ノ名稱ヲ示スヘシ又標高ニ依リテ一地點ヲ指示スル時ハ常ニ補足ノ語ヲ用ヒテ他ノ標高ト混セサルヲ要ス（例ヘハ何村ノ西方向何吉米ニ在ル標高何々）

第三十一、一地區或ハ軍隊ノ位置ヲ單ニ左右ノ方向ニ從ヒ示スニハ我軍ニ在リテハ右翼ヨリ敵軍ニアリテハ其左翼ヨリ始ムルヲ通常トス然レトモ著名ナル地點若クハ地物ヲ基準ト爲シ此基準ヨリ右或ハ左ノ方向ニ表示スルヲ可トスルコトアリ

第三十二、司令部及軍隊ヲ示スニ方リ凡テ明瞭ヲ缺カサル略語ハ之ヲ用フル事ヲ得

一部ヲ缺キタル軍隊ヲ示スニハ「第何隊缺」或ハ「幾隊缺」ノ文字ヲ括弧内ニ記スヘシ又要スレハ本部及之ニ屬スル部隊トシテ記スヘシ

第三十三、凡テ書類ハ字體ヲ正シテ鮮明ニ筆記シ光明不十分ノ時ニ於

テモ尙通讀シ得ヘカラシメ誤リ易キ文字（例ヘハ二トニ、八トハ、カトカ等）ハ殊ニ明瞭ニ記載スヘシ

第二章 搜索及諜報勤務

第三十四、搜索ノ目的ハ敵ノ位置、動作及兵力ヲ探知スルニ在リ而シテ之ニ任スル部隊ハ又屢々地形ノ偵察ヲモ併セ行フモノトス

第三十五、搜索勤務ハ主トシテ騎兵ノ任スル所ナリ

第三十六、諜報勤務ハ居民ノ口述、信書ノ點檢、俘虜ノ尋問、間諜ノ使用其他諸種ノ徵候等ニ依リテ其目的ヲ達スルモノニシテ其得タル結果ハ直接軍ノ搜索機關ニ依リテ蒐集セル諸情報ヲ補綴シ若クハ確定スル資料トナルモノナリ

第三十七、斥候及小部隊ハ搜索ノ爲メ視察ヲ以テ主要ナル手段トス然レトモ此目的ヲ達センカ爲メ敵ノ小部隊若クハ斥候ヲ驅逐スルヲ必

要トスルコトアリ

第三十八、一ノ斥候ニ用ユル兵力ハ任務、敵情、之ヲ派遣スル部隊ノ大小、土民ノ動靜及報告送致ノ方法等ヲ考慮シテ定ムヘキモノトス然レトモ斥候ノ兵力増大スルニ從ヒ敵眼ヲ避ケテ行動スルコト益々困難トナルニ顧慮スヘシ

第三十九、斥候勤務ニ要スル所ノ性質四アリ慧敏、熱心、沈着、剛膽是ナリ而シテ就中剛膽ナルモノ最モ能ク其任務ヲ達成スルヲ得ヘシ然レトモ斥候ハ又常ニ不意ノ危害ヲ豫防スル爲細心ノ注意ヲ怠ル可カラス

第四十、斥候ハ情況ノ許ス限リ道路ニ依リテ行動シ一ノ展望地點ヨリ他ノ展望ノ地點ニ躍進シ其目的ヲ達スルコトヲ勉ムヘシ休憩ニ際シテハ適當ノ潜伏所ヲ索メ敵ニ發見セラル、コトナク又敵狀監視ヲ中絶セサルコトニ注意シ尙敵意ヲ有スル地方ニ於テハ大ナル住民地ヲ

再ヒ通過セス又村落及圍墻内ニハ永ク位置ス可カラス

第四十一、時ノ形勢ニ依リ斥候長ハ其部下ノ大部ヲ認知シ易キ地ニ駐メ單身或ハ兵卒若干ヲ伴ヒ更ニ冒進スルコトアリ

第四十二、徒歩斥候ハ蔭蔽シテ行動シ得ルヲ以テ敵ト接近セル場合ニアリテハ重要ナル任務ヲ果シ得ルモノトス特ニ歩兵將校斥候ハ此ノ如キ場合ニ於テ多ク之ヲ使用ス

豫メ定メラレタル單簡ナル記號ハ徒歩斥候相互並ニ後方ニ報告スル爲メ往々最良ノ通信法タル事アリ

第四十三、居民ノ言ヲ聽キ又新聞紙、信書、電信（原書、現字紙）其他郵便局、通信所、官公署等ニアル書類ヲ奪取スルトキハ重要ノ事件ヲ探知シ得ルモノトス而シテ此ノ如キ情報材料ノ蒐集ハ主トシテ搜索部隊及斥候等ノ任務ニ屬スルト雖モ其他ノ部隊モ亦敵地ヲ占領スルニ方リ其機ニ際會スルコト尠カラサルモノトス

第四十四、俘虜及遺留シタル傷病者ノ言並其携帯セル圖書、戰死者ノ携帯圖書、或ハ敵ノ遺留セシ圖書モ亦情況判斷ノ重要ナル材料ト爲ルモノナリ

第四十五、極メテ些細ナル徵候モ之ヲ探究スルトキハ往々重大ナル情況ヲ發見スルコトアリ

住民ノ意向、態度、敵兵宿營ノ跡、通信交通機關ノ設置方向或ハ破壞ノ方法等ヲ仔細ニ觀察スルトキハ敵ニ關スル情況判斷ノ憑據ヲ得ルコトアリ

第二章 警戒勤務

第一節 通則

第四十六、警戒ノ目的ハ行軍及駐軍間不意ノ敵襲ヲ豫防シ且ツ敵ノ視察ヲ妨クルニ在リ

第四十七、警戒ノ部署ハ一定不變ノモノニ非スト雖モ敵方ニ向ヒ逐次少ナル數箇ノ部隊ニ區分スルヲ通常トス然レトモ小ナル部隊ニ在リテハ僅カニ其警戒ニ要スル最少ノ兵力ヲ支分スルニ過キサルモノトス

凡テ警戒隊ノ常ニ服膺ス可キ原則ハ敵方ニ近キ小ナル部隊ハ更ニ戰備ヲ嚴ニシ以テ逐次大ナル部隊ノ警戒ヲ擔任スルニ在リ

第四十八、搜索ノ周密ナルハ警戒ノ主要條件トス故ニ警戒隊ハ絶エス其所在地附近ヲ搜索スルハ勿論尙所要ニ應シ遠距離ニ亘リ搜索ヲ行フヲ要ス

第二節 行軍ノ警戒

其一 要領

第四十九、行軍間ニ於ケル警戒ハ前衛、側衛又ハ後衛ヲ以テス而シテ其任務ハ敵ノ攻撃ニ對シ本隊ニ動作ノ自由ヲ得セシメ且ツ其行進ヲ

シテ澁滯ナカラシムルニアリ

其二 前衛

第五十、前進行ニ於ケル前衛ノ行動ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

一、行進路上ニ在ル障礙ヲ除去ス之カ爲メ敵ノ小部隊ノ如キハ之ヲ擊破シテ前進ス

二、敵ト接近スルニ至レハ其陣地若クハ行進方向及兵力ヲ偵察シ且ツ我本隊ノ開進及ヒ展開ヲ掩護ス

三、敵ヲ追撃スルニ方リテハ速ニ之ヲ追及シ其主力ヲシテ抗戰スルノ已ムヲ得サルニ至ラシム

第五十一、前衛ハ通常前衛本隊、前兵及前衛騎兵ニ區分ス、但シ小ナル部隊ニアリテハ單ニ尖兵中隊若クハ尖兵ノミヲ出スコトアリ

第五十二、大ナル前兵ニアリテハ其警戒ヲシテ益々確實ナラシメンカタメ更ニ歩兵一中隊ヲ前方三百乃至四百米ニ出スコトアリ之ヲ尖兵

中隊ト稱ス

第五十三、前兵若クハ尖兵中隊ハ概ネ前ト同一若クハ尙大ナル距離ニ歩兵ノ尖兵ヲ出ス又前兵ハ配屬セラレタル騎兵ヲ以テ歩兵尖兵ノ前方ニ更ニ騎兵尖兵ヲ出スモノトス時宜ニ依リ騎兵尖兵ヲ省キ單ニ歩兵尖兵ノミヲ出スコトアリ

歩兵尖兵ハ一分隊以上ノ兵ヲ將校ノ指揮ニ屬シ行進路上ヲ搜索セシムルモノニシテ其將校ハ前方ニ發生スル事故ヲ速ニ判別スル爲尖兵群ノ前方ニ在リテ行進シ又連絡兵ヲ以テ前兵或ハ尖兵中隊ト連絡スルモノトス而シテ敵ニ接近スルニ至レハ所要ニ應シ行進路ノ近傍ニ斥候ヲ派遣シ又村落若クハ蔭蔽地ニ在リテハ特ニ意ヲ用ヒテ搜索ヲ爲スモノトス

第五十四、凡ソ前進運動ニ於テハ小ナル部隊ハ常ニ大ナル部隊ノ進退ニ從ヒテ行動ヲ律スルモノニシテ其相互間ノ連絡ニハ必要ニ應シ通

常歩兵ノ連絡兵ヲ用フ而シテ連絡兵ノ數及其動作ハ部隊間ノ距離並ニ道路ノ通視シ得ヘキヤ否ヤニ依リテ異ルモノトス

連絡ハ大ナル部隊ヨリ小ナル部隊ニ向ヒテスルヲ原則トス然レトモ連絡ノ維持困難ナルニ際シテハ小ナル部隊モ亦種々ノ方法ヲ以テ大ナル部隊ニ連絡ヲ圖ラサル可カラス

第五十五、側敵行ニ於ケル前衛ノ任務ハ主トシテ敵ノ騎兵等ニ對スルノ外行進路ノ障礙ヲ除去セシムルニアリ

第五十六、退却行ニ於ケル前衛ノ任務ハ專ラ退路ノ通過ヲ自由ナラシムルニ在リ

其三 側衛

第五十七、側敵行ニ於ケル側衛ノ行動ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

一、本隊ト並進シ其側敵行動ヲ掩護ス

二、要スレハ本隊行進路ノ側方ニ陣地ヲ占領シテ其通過ヲ安全ナラ

シム

三、非常ノ場合ニ於テハ敵ヲ攻撃シテ之ヲ抑留シ以テ敵ヲシテ我本隊ニ近迫スル能ハサラシム
側衛ハ如何ナル場合ニアリテモ本隊ヲシテ戦闘ヲ避ケシムルコト必要ナリ

第五十八、側衛ノ部署及警戒方法ハ其時ノ形勢ニ從ヒテ異ルモノトス而シテ本隊ト並迫スル場合ニ在リテハ通常前兵、側兵等ヲ以テ正面及側面ヲ警戒シ時宜ニ依リ後兵ヲ以テ背後ヲモ警戒スルモノトス
第五十九、前進行ノ警戒ニ於テ前衛ハ前方ノ外、側方ノ警戒ヲモ忽ニス可カラス側方警戒ノ爲メ斥候ノミニテ十分ナラサルトキハ更ニ側衛ヲ分遣ス而シテ此側衛ハ形勢ニ應シ前兵若クハ前衛本隊ヨリ分遣シ或ハ直ニ本隊ヨリ之ヲ分遣スルモノトス

第六十、退却行殊ニ優勢ナル敵前ニ於テハ敵兵遠ク後衛ヲ繞回シテ本

隊ニ迫ル虞レアルヲ以テ特ニ側衛ヲ後衛又ハ本隊ヨリ派遣スルヲ要スル事多シ

其四 後衛

第六十一、退却行ニ於ケル後衛ノ行動ハ本隊ノ情況、敵ノ遠近及其動作ニ應シ異ルト雖モ概ネ左ニ準據スルモノトス

一、勉メテ行軍縱隊ヲ以テ行進シツ、本隊ノ退却ヲ掩護ス之カタメ其本隊トノ距離ハ之カ行進ノ遲滯ヲ顧慮シ通常前衛ニ於ケルヨリモ長遠ナラシム

二、要スレハ陣地ヲ占領シテ敵ノ前進ヲ拒止ス而シテ其陣地占領ニ方リテハ獨力ヲ以テ戦闘ヲ終始セサル可カラサルコトニ顧慮スルヲ要ス

三、非常ノ場合ニ於テハ全隊ノ爲メ犠牲ト爲リ以テ本隊ノ退却ヲ容易ナラシム

第六十二、後衛ハ通常後衛本隊、後衛及後衛騎兵ニ區分シ其編組及部署ハ前進行ニ於ケル前衛ニ準スルモノトス

第六十三、前進行及側敵行ニ於テ縦隊ノ後方ニ敵ノ騎兵部隊等出沒シ背後安全ナラサル時ハ特ニ後衛ヲ備ヘテ警戒セサル可カラス

第三節 前哨

其一 要領

第六十四、前哨ハ休止ノ軍隊ヲ警戒スルヲ以テ任トス

第六十五、前哨ハ常ニ完全ナル戰備ヲ整ヘ敵襲ニ對シテハ全力ヲ竭シテ抗戰セサル可カラス

第六十六、凡テ前哨勤務ニ服スル部隊ハ決シテ自ラ無益ナル戰鬪ヲ求ム可カラス是無益ノ小鬪ハ全隊ノ靜肅ヲ妨碍シ且ツ時トシテハ遂ニ前哨ノ抗拒シ得サル大戰ヲ惹起スルニ至ルノ虞アルヲ以テナリ

其二 行軍前哨

第六十七、前哨ハ主トシテ歩兵ヲ以テ之ニ任スルモノトス而シテ搜索ニ任スル爲メ之ニ所要ノ騎兵ヲ附屬ス

第六十八、前哨ハ通常分ツテ前哨本隊及前哨中隊ト爲ス而シテ前哨本隊及前哨中隊ニハ所要ノ騎兵ヲ配屬シ搜索及傳令勤務ニ充ツルモノトス

前哨本隊ハ前哨ノ豫備ニシテ敵襲ニ際シ前哨中隊ヲ増援シ要スレハ之ヲ收容スルモノトス之カ爲メ通常主要ナル道路ノ近傍ニシテ交通便利ナル地點ニ位置スルモノトス

前哨中隊ハ主要ナル警戒線ヲ形成スルモノニシテ敵襲ニ際シ之ヲ抗拒スルヲ任トス故ニ別命ナケレハ極力其位置ヲ保持スヘキモノトス前哨中隊ハ小哨ヲ出シテ警戒ス又情況ニ依リ前哨中隊ノ外、前哨本隊或ハ更ニ其後方ノ部隊ヨリ直ニ其前方若クハ側方ニ小哨ヲ配置スルコトアリ

第六十九、前哨司令官ハ前哨本隊ノ宿營法、戰備ノ度及直接ノ警戒等ヲ規定ス

第七十、前哨中隊ノ數及其配置ハ敵情、地形、殊ニ道路網ノ形狀ニ從フモノトス

前哨中隊ニハ特別ノ番號ヲ附スルコトナク各々其中隊ノ番號（前哨第何中隊）ヲ稱フルモノトス

第七十一、前哨中隊ニアル下士兵卒ハ通常背囊ヲ卸ス然レトモ其一部ハ常ニ又銃線ノ側ニ在リテ戰備ヲ怠ル可カラズ而シテ任務ノ爲メカ或ハ許可ヲ得ルニ非サレハ一人ト雖哨所ヲ離ルルヲ許サズ

第七十二、前哨中隊ハ其隊ヲ直接警戒スル爲銃前哨（單哨）ヲ備フ若シ中隊掩蔽下ニアル時ハ之ヲ復哨トス又地形甚タ蔭蔽ノ爲メ之ヲ要スル時ハ數箇ノ單哨若クハ複哨ヲ配置ス

第七十三、小哨ハ切要ナル道路又ハ要點ノ警備ニ任ス

小哨ハ一ノ前哨中隊中ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附スルモノトス
第七十四、小哨ハ最前線ニアリテ警戒ヲ擔任ス、故ニ小哨長ハ注意周密ニシテ職務ニ勤勉ナルヘク下士兵卒ハ精神ヲ奮勵シ監視ヲ嚴密ニセサル可カラズ

小哨ニハ小隊或ハ其以下ノ兵力ヲ用ヒ其重要ノ度ニ應シ將校又ハ下士ヲ以テ長ト爲ス

第七十五、小哨ハ爲シ得ル限り黄昏前ニ其占ムヘキ地點ニ位置シ能ク其地形ヲ認識シ且ツ所要ノ工事ヲ施スヲ要ス

第七十六、步哨ノ配置宜シキヲ得レハ多ク小哨ノ兵力ヲ減セスシテ能ク警戒ヲ嚴ニス

步哨ヲ配置スルニハ必シモ其線ヲ連續セシムルヲ要セス、主トシテ敵方ニ通スル道路、並ニ重要ノ地點ヲ警戒スヘシ而シテ其間ノ空隙ハ所要ニ從ヒ斥候及巡察ヲ派遣シテ之ヲ監視セシムヘシ

小哨長ハ步哨ノ數、人員及位置ヲ定ム而シテ步哨ハ復哨（二人乃至四人）ト爲シ或ハ時宜ニ依リ下士哨ト爲スコトアリ

第七十七、特別ニ重要ナルカ或ハ交代不便ナル地點ニハ下士哨ヲ用フヘシ此下士哨ノ人員ハ其任務ニ依リ差異アリト雖モ少クモ下士（時宜ニ依リ上等兵）一人兵卒六人ヲ以テシ通常其二人ハ監視ニ任シ爾餘ハ直接其近傍ニ位置シテ成ルヘク遮蔽シアルヲ要ス但シ銃ハ必ス之ヲ手ニシアルヘシ

第七十八、小哨ヨリ交代スヘキ復哨ハ其小哨ヲ距ル、コト約四百米ヲ超エサルヲ通常トス

第七十九、步哨ノ配置法ハ通常一哨所ニ屬スル兵卒（交代兵共）ヲ步哨掛又ハ下士哨長タル下士或ハ上等兵ニ引率セシメ小哨ノ位置ヨリ同時ニ捷路ニ依リ豫メ指示シタル地點ニ就カシム而シテ小哨長ハ各哨所ニ到リ步哨掛又ハ下士哨長ニ守則ヲ授ケ且ツ兵卒ニモ聽聞セシ

ムヘシ然ル後步哨掛下士哨長ハ小哨長ヨリ受ケタル守則ヲ步哨及其交代兵ニ能ク記憶理解セシム而シテ下士哨ハ其他ニ留マリ步哨掛リハ交代兵ヲ率キテ小哨ニ歸ルモノトス

一哨所ニ屬スル步哨ノ交代法ハ小哨長之ヲ定ムルモノトス

第八十、小哨長ハ步哨ノ員數及其位置ヲ初ヨリ概定スル能ハサルトキハ豫想セル配置人員ヲ率キ必要ナル部分ヨリ逐次ニ之ヲ配置スヘシ

第八十一、步哨ハ各小哨毎ニ複哨ト下士哨トヲ通シテ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附スルモノトス

第八十二、步哨配置ノ間ハ前方ニ斥候ヲ派遣シテ警戒スヘシ而シテ步哨ノ配置終レハ小哨ハ銃ヲ銃架ニ託シ若クハ又銃ヲ爲シ所要ノ銃前哨ヲ備ヘ以テ小哨直接ノ警戒ニ任セシム

第八十三、小哨長ハ步哨ニ充テサル者ヨリ若干ノ斥候ヲ區分シ尙殘餘

ノ兵ヲ以テ其他ノ勤務ニ充ツルモノトス而シテ歩哨ノ交代兵中同時ニ交代スヘキ者及各斥候毎ニ又銃シ若クハ銃ヲ銃架ニ託シ置クヘシ

第八十四、小哨ニ在ル下士兵卒ハ小哨長ノ命令ニ依リ背囊ヲ卸スヲ得然レ雖帶革（銃劍、彈藥盒共）、雜囊及水筒ハ各自常ニ其身體ニ纏フヘシ

小哨長ハ下士兵卒ノ休憩ノ比例ヲ平等ナラシムルコトニ注意スヘシ

小哨ニ在ル者ハ夜間睡眠セサルヲ本則トス但シ時宜ニ依リ下士兵卒ノ一部ヲシテ假眠セシムル事ヲ得

任務ノタメカ或ハ許可ヲ得ルニ非サレハ一人ト雖モ小哨ヲ離ル、ヲ許サス

第八十五、小哨長ハ歩哨ヨリ報告シ來リタルモノニシテ我軍ノモノタルコト判然疑ヒナシト認定スレハ歩哨線ノ通過ヲ許スヘシ其我軍ニ屬スルヲ確認スル能ハス或ハ疑シキ者ハ所要ノ護衛兵ヲ附シ直ニ之

ヲ前哨中隊ニ送附スヘシ降參人及我軍ニ屬スル間諜（其眼ヲ縛シ）モ亦然リ而シテ護衛兵ハ之ト談話スヘカラス

歩哨ヨリ軍使ノ來リシコトヲ報告セシトキハ小哨長ハ之ヲ前哨中隊長ニ報告スヘシ

第八十六、晝間ニ於テ小哨ヲ配置セシトキハ小哨長ハ天光ノ有ル限り警戒區域内ヲ巡視シテ地形ヲ認識スヘシ但シ常ニ其所在ヲ明ニスヘシ而シテ夜間ハ其小哨ノ位置ニ在ルヲ原則トス又小哨長ハ敵襲ニ對シテ常ニ必ス小哨ノ戰備ヲ缺カサルヲ以テ責任ト爲スヘシ

第八十七、歩哨ハ成ルヘク十分ナル展望ヲ有シ且ツ敵眼ヲ避ケ得ヘク位置スルヲ要ス特ニ晝間歩哨ノ一人ハ樹木家屋、堆土等ヲ利用シ望遠鏡ニ依リテ監視ニ任スルヲ可トス此場合ニ於テハ容易ニ敵ニ發見セラレサル爲メ哨所附近ノ地物ト同色ノ物件ヲ以テ歩哨ノ身邊ヲ掩フヲ利トスルコトアリ

凡テ高所ニ在ル歩哨ノ火光、焰氣ヲ視、響音ヲ聞クニ利益アリトス
又夜間低地ニ在ル者ハ敵ヲ空際ニ透視シ得ルノ利アリ

第八十八、歩哨線ニアル歩哨一般守則左ノ如シ

歩哨ハ絶エス敵軍ノ方ヲ監視シ凡テ疑ハシキ徴候ニ深ク注意シ若シ
敵ニ關シテ發見セル事アレハ速ニ其一人ハ小哨ニ報告スヘシ若シ猶
豫セハ危殆ニ陥ルト認メシトキハ連續數發ノ射撃ヲ爲シテ警報シ且
ツ其一人ハ小哨ニ報告スヘシ而シテ敵ノ單獨兵又ハ數人ヨリ成ル斥
候ノ如キハ之ヲ射殺又ハ捕獲スル事ヲ圖ルヘシ

晝間ハ我軍ノ將校、部隊、斥候及傳令ニ歩哨線ノ出入ヲ許ス爾餘ノ
者ノ通過ニ關シテハ總テ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ、歩哨ノ命スル所
ニ從ハサル者アレハ之ヲ射撃スヘシ

夜間歩哨ニ近ツク者アレハ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ若シ呼フコト三
次ニ至ルモ尙答ヘサルトキハ射撃スヘシ凡テ其他ノモノハ晝間ノモ

ノニ異ナル事ナシ

白旗ヲ翻シ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ル者アルトキハ之ヲ待遇
スルニ敵ヲ以テセス之ヲ歩哨線外ニ留メ小哨長ニ報告スヘシ此規則
ハ敵ノ單獨兵銃ヲ投棄シ或ハ遠方ヨリ降參人タルコトヲ標シ來ル時
ニモ亦適用ス然レトモ降參人ニシテ武器ヲ携帯シアルトキハ先ツ之
ヲ放棄セシムヘシ

歩哨ハ喫烟シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サス又命令アルニ非サレハ坐
臥スルヲ得ス而シテ晝間立銃ヲ爲スカ或ハ提銃ヲ爲スカ若クハ腕ニ
銃（銃口ヲ前ニシテ略々水平ニ腕ニ託ス）ヲ爲スヘキカハ其隨意ト
ス然レトモ夜間ハ擔銃、提銃又ハ腕ニ銃ヲ爲スモノトス若シ上官ヨ
リ質問アレハ監視ヲ中止スルコトナクシテ之ニ答フヘシ

第八十九、小哨長ハ歩哨ノ特別守則ヲ定メ一般守則ヲ補足ス
特別守則ニ含有スヘキ事項概ネ左ノ如シ

其歩哨ノ番號

敵情

前方ニ在ル我部隊及斥候ノ情況

特ニ監守スヘキ區域及必要ナル道路、村落等ノ名稱

隣歩哨ノ位置、番號及之トノ連絡法

小哨並ニ中隊ノ位置及此各位置ニ通スル捷路

其他歩哨ノ人員ニ應シ如何ニ監視スヘキカ等須要ノ事ニ關スル守則

ヲ定ムヘシ

第九十、歩哨ハ我歩哨線ヲ出發スル斥候ニ自己ノ見聞セシ情況ヲ告ケ

斥候ノ受ケタル任務及歸還ノ時刻、場所等ノ概要ヲ聽キ又歸來スル

斥候ヨリ其見聞セシ事件ヲ聽取スルモノトス

第九十一、歩哨ノ交代ハ新舊兩兵敵ノ方向ニ面シテ位置シ舊歩哨ハ新

歩哨ニ其服務中見聞セシ事件ヲ傳告スヘシ但シ此交代ニハ必ス歩哨

掛ノ立會ヲ要ス

第九十二、鏡前哨ノ動作及守則ハ歩哨ニ準ス但シ凡テノ報告ハ通常其

位置ヲ離ル、コトナク之ヲ爲スモノトス

第九十三、斥候ノ任務及其動作ハ敵情並地形ニ應シテ異ルモノトス

斥候ハ進退動作ニ深ク注意シ靜肅ニシテ喧噪ス可カラス又屢々駐止

シテ響音ヲ聽取シ能ク地形ヲ暗識スヘシ是レ地形ニ付テノ解説ヲナ

シ且ツ時宜ニ依リ嚮導トナリ得ンカ爲メナリ而シテ要スレハ往路ト

異ル歸路ヲ擇ヒ敵ニ中斷セララル、危険ヲ避クヘシ

歩哨線前ノ地域ヲ監視スル爲メ某地點ニ斥候ヲ駐止セシメ又敵兵ヲ

捕獲スルタメ之ヲ潜伏セシムルヲ有利トスルコトアリ特ニ夜間ニ於

テ然リトス而シテ此斥候ハ敵襲ヲ知リタル時ハ射撃ヲ以テ警報スヘ

シ

斥候歸着ノ時刻ハ概定スルヲ可トス又其時ノ形勢ニ從ヒ背囊ヲ脱セ

シメ派遣スルヲ得

凡テ斥候ハ歩哨線ヲ通過スル時其近隣ノ歩哨ニ任務ノ概要及歸來ノ時刻並場所ヲ告ケ其歩哨ノ見聞セシ新情況ヲ聽取シ歸路ニハ敵ニ關シテ見聞セシ事件ヲ單簡ニ告知スヘシ

斥候ノ歸路往路ト異ル時ハ之ヲ派遣シタル小哨長等ハ其歸路ヲ監視スル歩哨ニ斥候ノ歸來スル概略ノ時刻等ヲ豫メ告知シ置クヲ要ス夜間ニアリテハ殊ニ然リトス

第九十四、巡察ハ前哨各部隊ヨリ出ス而シテ其任務ハ歩哨線内ヲ巡視シ各哨所及歩哨ヲ監視シ且ツ歩哨ヲ配置セサル土地ヲ搜索シ比隣哨所ト連絡ヲ通スルニ在リ而シテ其人員ハ臨時之ヲ定ムルモノトス歩哨線ニ於テ射擊或ハ喧噪セシ時ニ於テモ亦巡察ヲ派遣シ其事實ヲ究メ且ツ歩哨ヲ援助セシムルコトアリ

第九十五、軍隊敵ニ近ク宿營シ戦闘準備ヲ必要トスル場合ニ於ケル前

哨ノ配置、區分及其勤務ハ專ラ戰鬥上ノ顧慮ニ基キテ之ヲ定メ其警戒ハ敵ニ關スル顧慮多キニ從ヒ益々嚴ナルヲ要ス

敵ト接近シ永ク相對峙スルトキハ一層警戒ヲ嚴ニシ前哨線ハ相連絡シテ空隙ナキヲ要シ其他種々特別ノ部署ト工事トヲ施スヲ必要トスルニ至ル

第九十六、前哨ハ主トシテ歩兵ヲ以テ之ニ任シ之ニ所要ノ機關銃及騎兵ヲ屬ス

第九十七、歩哨ハ互ニ近ク相接シテ配置シ以テ一人モ歩哨ノ眼ヲ逃レ或ハ其射擊ヲ受ケスシテ其線ヲ通過スルコトヲ得サラシムヘシ故ニ夜間又ハ濃霧等ノ際ハ時宜ニ依リ更ニ近ク歩哨ヲ相接セシムルヲ要スルコトアリ

歩哨モ亦掩護物ヲ探求シ或ハ特ニ設置シテ之ニ據ラシムヘシ

第九十八、對陣久シキニ涉ルトキ要スレハ最高級指揮官ハ暗黒中ノ認

識ニ要スル暗號ヲ選ヒ之ヲ指定ス

此ノ如キ場合ニ在リテハ歩哨（巡察等）ハ先ツ「誰カ」ト問ヒ其答ニ依リ我軍ノ者タルヲ認知セシ後更ニ「暗號ニ進メ」ト呼ヒテ之ヲ確認スヘシ暗號ヲ唱フル聲音ハ唯歩哨（巡察等）ノ能ク之ヲ聞キ得ルヲ以テ度トスヘシ

我軍ノ者タルヲ認知スト雖モ暗號ヲ知ラス或ハ暗號不正ナル者ハ先ツ其地ニ停止セシメ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ若シ遁逃セントスルノ狀アルトキハ之ヲ射撃スヘシ

第九十九、前哨部隊ノ配置數日ニ涉ルトキハ之ヲ交代セシムルヲ可トス就中小哨ハ概ネ二十四時間以内ニ交代セシムルモノトス

小哨ノ交代ハ靜肅且ツ蔭蔽シテ之ヲ爲スヘク此際警戒ヲ中絶セサルコト緊要ナリ

舊小哨長ハ成ルヘク豫メ新小哨長ニ緊要ノ事件ヲ傳告シ然ル後協同

シテ歩哨ヲ交代スヘシ舊歩哨掛又ハ下士哨長モ亦新歩哨掛又ハ下士哨長ニ其守則及特別ニ知ルヲ要スル事件ヲ傳告スヘシ
此交代ト同時ニ新舊兩哨ヨリ共同ノ斥候ヲ派遣ス是レ新哨ノ斥候ヲシテ歩哨線前ノ地形ヲ暗識セシメンカ爲ナリ
凡ソ交代ハ拂曉ニ於テ之ヲ終ルヲ可トス然レトモ時刻ノ選定ハ特ニ其時ノ景況ニ依ルモノトス

第四章 行軍

第一節 通則

第百、行軍ハ總テノ作戰ノ基礎ヲ成スモノニシテ其實施ノ確實ナルハ諸般ノ企圖ニ好果ヲ獲ルノ要素ナリ

第百一、平時ノ行軍ニ慣熟シタル軍隊モ動員ニ方リテハ勞苦嚴格ノ慣習ヲ失ヒタル在郷兵ノ加ハルカ爲メ大ニ行軍力ヲ減殺セラル故ニ動

員ニ際シ苟モ練習ノ時間ヲ得ハ之ヲシテ行軍ニ習熟セシムルヲ圖ルヘシ就中徒歩兵ニ於テ此注意ヲ緊要トス

第百二、行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ人馬ノ衛生特ニ徒歩兵ノ靴傷馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ニ注意シ又其給養ヲ良好ナラシムルハ行軍力ヲ保持シ且ツ之ヲ増進スルニ最モ有効ノ方法ナリ兵卒及馬匹ニ付行軍中絶エス被服、裝具、蹄鐵ニ注意シ特ニ休憩中及宿營ニ於テ兵卒自ラ足部ノ保護ニ關シ適當ノ注意ヲ爲スヤ否ヤヲ監視シ且ツ此等ノ事ヲ忽ニスル者ナカラシムルハ中隊長及之ニ準スル部隊長ノ責任トス

第二節 行軍ノ種類

第三、旅次行軍ハ敵ニ觸接スル虞ナキトキニ於テ行フモノニシテ主トシテ軍隊ヲ休養スルコトニ顧慮スルモノトス之カ爲メ有効ナル方法ハ軍隊ヲ分ツテ小ナル編合部隊ト爲シ或ハ各部隊毎ニ行進セシメ且ツ各自其宿營地ヨリ宿營地ニ至ル最近且ツ便利ノ道路ヲ取ラシムル

ニ在リ蓋シ行軍縱隊ノ大ナルニ應シテ撞著ヲ起スコト愈々多ク其影響モ亦從ヒテ甚タシク且ツ夏季ニ於テハ炎熱ノ害ヲ受クルコト益々大ナレハナリ

第百四、戰備行軍ハ敵ニ觸接スヘキ虞アル時ニ於テ行フモノニシテ戰鬪準備ヲ主トスルモノトス之カ爲諸部隊ヲ集結シテ大ナル戰術上ノ編合ト爲シ行軍序列ヲ定メ且ツ警戒法ヲ設ケ又要スレハ縱隊ノ長徑ヲ減縮スヘシ

第百五、旅次行軍ト戰備行軍トヲ問ハス情況ニ依リ急行若シクハ強行ヲ必要トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ行軍間ノ休日ヲ廢シ且ツ其行程ヲ増大シ或ハ爲シ得ル限り休憩時間ヲ減少シ尙夜間ニ於テモ行軍ヲ繼續スルモノトス
夜行軍ハ右ノ外敵ニ對シ我行動ヲ祕匿スル爲又ハ往々炎熱時ニ於テ晝間ノ行軍ニ代ヘ之ヲ行フコトアリ

第三節 行軍隊形

第百六、行軍中ハ下士、缺伍ノ兵卒、上等看護卒モ皆四人ヲ以テ一伍ヲ作ルヘシ、喇叭手ノ位置ハ大隊長之ヲ定ム其中一人ノ喇叭手ヲ大隊（或ハ獨立中隊）ノ後尾ニ行進セシムヘシ是レ道路ノ一側ヲ虚ウスルコト殊ニ須要ナルトキハ附近ニ在ル將校ノ指示ニ依リ「右」或ハ「左」ノ譜ヲ吹奏セシメンカ爲メナリ此號音ヲ聞クトキハ行軍縱隊中ノ諸兵ハ之ニ從ヒ嚴ニ其一側ニ偏スヘキモノトス

中隊長及小隊長ハ行軍中其中隊若クハ小隊ヲ監視スルニ便利ナル位置ニ在ルヘシ然レトモ一將校ハ中隊ノ後尾ニアリテ行進スヘシ

第百七、歩兵機關銃隊ノ行軍隊形ハ縱隊トス

第百八、騎兵ノ行軍隊形ハ四伍縱隊若クハ二伍縱隊トス

第百九、砲兵ノ行軍隊形ハ砲車縱隊トス

第百十、工兵ノ行軍隊形ニ關シテハ歩兵ノ爲メ規定シタルモノニ準

ス

第四節 行軍實施

第百十一、軍隊出發後道路ニ出ツレハ徒歩兵種ニ在リテハ「途歩」爾餘ノ兵種ニ在リテハ「休メ」ノ號令若クハ號音ヲ傳フ是ニ於テ歩ヲ調フルヲ要セス特別ノ時ヲ除ク外ハ談話シ唱歌シ喫煙スルヲ許シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ（要スレハ中隊長之ヲ規定ス）右肩、左肩ニ擔ヒ或ハ負革ヲ以テ肩ニ懸クヘシ而シテ軍隊ハ路上便利ナル側方ヲ擇ヒ行進スヘク若シ道路ノ兩側便利同シキ時及他部隊ニ遭遇セシトキハ行進方向ニ對シテ道路ノ右側ヲ行進スヘシ行軍中背後ニ從フ諸部隊ハ皆先頭部隊ニ準スヘク且ツ兵卒ハ勉メテ前後ニ重疊シ以テ縱隊面ヲ擴張セサルコトニ注意スヘシ

廣キ街道ニ於テハ常ニ其一側ヲ虚ウシ他部隊ノ通過ニ供スヘク狹キ道路ニ在リテモ單獨ノ乘馬者ヲシテ縱隊ノ行進ヲ妨碍スルコトナク

疾走スルヲ得セシムヘシ又其部隊ニ屬スル乘馬將校ニ在リテモ其虛
 ウセル側方ニ出ツルハ唯一時通行ノ時ノミタルヘシ行軍縱隊ノ大ナ
 ル時ニ在リテハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ虛ウスルヲ可トスル事
 アリ
 各個人恣ニ服裝ヲ紊スヲ禁ス然レトモ襟ヲ開クカ如キ許スヘキ事件
 ハ其時機ヲ誤ラス速ニ指揮官ヨリ全隊ニ令スヘシ
 兵卒若シ已ムヲ得ス隊列ヲ離ル、ヲ要スルトキハ小隊長（小隊長近
 傍ニ在ラサルトキハ分隊長又ハ之ニ準スル諸長）ノ認可ヲ受クヘシ
 第百十二、縱隊中ノ一部隊ニ生スル行軍長徑ノ變化ハ縱ヒ小ナルモ漸
 次他ノ諸部隊ニ關係ヲ及ホス事大ナルヲ以テ兵卒ハ勉メテ歩度ヲ齊
 一ニシ以テ伍間ノ距離ヲ伸縮セサル事ニ注意スヘシ又行軍長徑ノ變
 化ヲ調節スル目的ヲ以テ各部隊間ニ一定ノ距離ヲ存スルヲ要ス、即
 チ歩兵中隊後二十歩トス

第百十三、大部隊ハ一吉米ヲ行クニ良好ノ景況ニ在リテ約十三分間ヲ
 要スヘシ

第百十四、夜行軍ヲ爲スニ方リテハ暗夜ト雖其定メタル方向ヲ確實ニ
 保持スル爲必要ナル百般ノ規定ヲ爲スコトニ特ニ注意セサル可カラ
 ス即チ縱隊中ノ集結ヲ正シク保持シ縱隊ニ嚮導ヲ附シ且ツ後續部隊
 ヲシテ進路ヲ誤ラシメサル爲メ所要ノ地點ニ連絡兵ヲ殘置シ若クハ
 適宜ノ標識ヲ爲スコト等ニ注意スルヲ最良ノ方法トス、其他道路ノ
 障礙ヲ除キ或ハ之ヲ迂廻シ以テ兵卒疲勞ノ原因タル撞著ノ患ヲ除キ
 且ツ休憩ハ成ルヘク時間ヲ短縮シ回數ヲ増加スル等ノ處置ヲ必要ト
 ス又敵ノ近傍ニ在リテハ靜肅ニ行進スルヲ以テ缺ク可カラサルコト
 、ス

第百十五、行軍スル軍隊ノ大患ト爲スモノハ炎熱及沍寒ナリ而シテ炎
 熱ノ際ニ在リテハ徒歩兵、沍寒ノ際ニ在リテハ乘馬兵ハ殊ニ困難ヲ

感シ之カタメ僅少ノ時間ニ於テ多數ノ列兵ヲ減スルコトアリ宜シク
深ク豫防法ニ注意スヘシ

炎熱ニ際シ特ニ恐ルヘキハ喝病ナリ而シテ其豫防法ハ行軍中適度ニ
飲水ヲ爲サシムル外成ルヘク列伍ヲ疎開シ帽ノ頤紐ヲ上ケ襟ヲ開カ
シメ又情況ニ依リ夜間ヲ利用シ若クハ晝間ノ酷暑時ヲ避クルヲ可ト
ス尙成ルヘク睡眠ノ不足ナカラシメ又空腹ナラシメス且ツ屢々休憩
セシムルヲ肝要トス

飲水供給ノ爲メニハ出發前必ス水筒ヲ充填セシメ又豫メ乘馬將校等
ヲ先遣シ住民ヲ促シ路側ニ水桶ヲ備ヘシムヘシ而シテ小部隊ハ暫次
駐止シテ全隊ニ飲水セシムルコトヲ得ヘシ然レトモ大部隊ニアリテ
ハ前後ノ部隊撞著スルノ虞アルヲ以テ此法ヲ用ヒ難シ故ニ行軍中水
ヲ得テ之ヲ飲ミ且ツ其携帯スル水筒ニ貯フルノ方法ニ依ラサル可カ
ラス

軍隊沸水車ヲ携行スルトキハ之ヲ使用シ成ルヘク生水ヲ用ヒシメサ
ルヲ要ス

沍寒ニ際シ最モ恐ルヘキハ凍死、凍傷ニシテ殊ニ夜行軍ニ於テ甚タ
シトス而シテ其豫防法ハ野外ニ於ケル休憩ヲ短クシ勉メテ運動ヲナ
サシメ特ニ時々手ヲ動シ得ル爲メ銃ハ負革ニテ肩ニ懸ケシムルヲ可
トス、又常ニ空腹ナラシメサルヲ要ス、爲シ得レハ休憩ノ際成ルヘ
ク熱キ湯茶ヲ給シ又被服特ニ手套、靴下等ノ濕潤ノ時若クハ甚シク
凍痛ヲ感スル時直接ニ火熱ニ觸レシム可カラス又屋外ノ睡眠ト酒類
ノ飲用等トヲ嚴禁シ鈕、紐ノ解脱ナキコトニ注意シ且ツ常ニ手足耳
鼻就中足尖ヲ凍傷ニ罹ラシメサルニ注意スルヲ緊要トス

第百十六、縦列材料ヲ以テ架設セル軍橋ヲ渡過スル軍隊ハ通常本章第
三節ニ掲クル行軍隊形ヲ以テシ且ツ橋梁ノ中央部ヲ行進スルモノト
ス

第一百十七、徒涉場ヲ通過スルニ際シテハ情況之ヲ許セハ徒歩兵ヲ先ニシ乗馬兵、車輛ヲ後ニスヘシ

流速大ナルトキハ軍隊ヲ幅廣キ密集セル小群ニ分チ每群間ニ若干ノ距離ヲ存シテ通過セシメ各兵ヲシテ水面ヲ諦視セシム可カラス又徒歩兵ハ手又ハ腕ヲ以テ互ニ相連結スルヲ可トス

彈藥ノ濕潤ヲ避クル爲メニハ豫メ之ヲ背囊ニ收メシムルカ又ハ舟筏等ニ積載シテ渡過セシムヘシ

第一百十八、氷上ヲ通過スルニハ成ルヘク灰、木屑、土砂、藁等ヲ撒布シ或ハ十字鍬等ヲ以テ氷面ヲ粗ニシテ以テ人馬ノ滑走ヲ豫防スヘシ若シ抗力十分ナラサルトキハ氷厚ノ増加ヲ圖リ或ハ板、梯子等ヲ敷キ若クハ各兵ノ距離、間隔ヲ疎開スルヲ要ス

第一百十九、舟筏ニヨリ水流ヲ渡過スル軍隊ハ通常渡河ヲ掌ル工兵將校ノ區處ニ從ワサル可カラス之カ爲メ渡河軍隊ノ指揮官ハ豫メ該將校

ニ就キ渡場ノ位置、舟筏ノ搭載量及乗船上陸法其他渡河ニ關スル必要ノ規定ヲ承知シ乗船前舟筏ノ搭載量ニ應シ軍隊ヲ區分シ且ツ指示セラレタル規定ニ從ヒ所要ノ準備ヲ整フルヲ要ス

軍隊ノ順序ニ從ヒ乗船シ又上陸ニ際シテハ速ニ上陸點ヲ離レ以テ混雜ヲ豫防セサル可カラス

航行中ハ何人ト雖其位置ヲ離レ若クハ姿勢ヲ變スルヲ許サス又特ニ漕手ノ動作ヲ妨礙セサルコトニ注意スヘシ

第五節 休憩

第一百二十、發程後約一時間ヲ經レハ服裝ノ改裝及爾便ニ要スル適當ナル少時間ノ休憩ヲ行ヒ其他行程ノ遠近ト天候ノ良否等トニ應シテ一回若クハ數回ノ休憩ヲ爲スヲ要ス若シ一回ナルホハ路程ノ過半ヲ經過シタル後ニ於テシ數回ナルホハ概ネ一時間毎ニ於テスルヲ適當トス
第一百二十一、休憩間下士兵卒ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス而

シテ徒歩兵ニ在リテハ特ニ足部ノ保護ニ注意スヘシ

第五章 宿 營

第一節 通 則

第二百二十二、舍營ハ戰鬪ノ準備容易ナル能ハスト雖モ風雨ヲ障蔽シテ人馬ヲ休養シ需用品ノ補充、調理並ニ裝具、被服ノ補修ニ便ナルヲ以テ極メテ惡キ舍營モ人馬ノ休養上ヨリスレハ尙露營ニ優レリトス故ニ苟モ戰術上妨ケナケレハ宿營ヲ以テ最良トス

第二百二十三、敵ニ接近セルカ或ハ大部隊ヲ稠密ニ集合スルヲ要スルカ若クハ其地方ニ家屋ノ乏シキカ爲メ舍營ヲ爲ス能ハサルトキハ村落露營ヲ爲スモノトス

第二百三十四、敵ニ觸接シ戰術上ノ顧慮ヨリ夜間尙一定ノ地域ニ位置セサルヲ得サル時或ハ舍營スヘキ住民地ニ乏シク他ニ方法ナキトキハ

露營ヲ爲スモノトス

第二節 舍 營

第二百二十五、高級指揮官ヨリ特ニ舍營司令官ヲ命セラレサルトキハ各舍營區ニ於テ高級古參ノ將校ハ即チ舍營司令官トス

第二百二十六、各舍營區ニ舍營日直將校一人（通常大尉、大部隊ニ在リテハ佐官）ヲ置キ時宜ニ依リ尙巡察將校若干人ヲ置ク舍營日直將校ハ直ニ舍營司令官ニ届告シ舍營ノ内務及其警戒ニ關シ指示ヲ受クヘシ此將校ハ内衛兵及外衛兵ノ長官ニシテ之ニ所要ノ區處ヲ與ヘ且ツ絶エス之ヲ監督スルヲ以テ責任トス

第二百二十七、各兵種ノ大隊（大隊ヲ成サル隊ハ聯隊）ハ中（少）尉一人ヲ各獨立中隊若クハ之ニ準スル部隊ハ下士一人ヲ以テ部隊日直ト爲ス部隊日直將校、下士ハ之ヲ命セラルレハ直ニ舍營日直將校ニ届告シ舍營ノ内務及其警戒ニ關シ必要ノ指示ヲ受クヘシ、部隊日直將

校下士ハ其舍營地區内ノ靜肅及秩序ニ注意シ且ツ所屬部隊長及舍營司令官ノ命令ヲ實施ス

第百二十八、舍營ハ時ノ形勢ノ許ス限り豫メ準備ヲ爲スヘシ

大部隊ノ舍營ニ在リテハ設營隊ヲ先發セシメ地方吏ト協議シ之カ準備ヲ爲サシムヘシ又行軍中ニ於テ各部隊ニ舍營地區ノ配當ヲ命シ得ルトキハ設營隊ヲ先遣スヘシ

第百二十九、軍司令部、師團司令部及舍營司令官ノ宿舍ハ旗或ハ標記ヲ以テ示シ夜間ハ燈火ヲ以テ認知シ易カラシムヘシ又此等宿舍ノ所在ハ豫メ衛兵所及各出口ニ在ル歩哨ニ教示シ置クヲ要ス、是來著スル傳令等ニ速ニ其宿舍ヲ指示シ得セシメンカ爲ナリ

第百三十、凡テ部隊號又ハ宿所ヲ標記若クハ掲示スルニ方リテハ間諜等ニ解シ得ラレサル如ク注意スルヲ要ス

第百三十一、歩兵ハ大隊其他ノ兵種ハ中隊毎ニ其舍營地區内ニ常ニ一

ノ警急集合場ヲ定ム

第百三十二、敵ニ關スル顧慮アルトキハ舍營地直接警戒ノ爲メ外衛兵ヲ置クヲ緊要トス

第百三十三、外營兵ハ舍營地ノ出口及外圍或ハ外方ニ在ル要點ニ複哨若クハ下士哨ヲ配置シ時宜ニ依リ外方ニ對シ道路ヲ閉塞スルコトアリ又常ニ近隣ノ宿營地ト連絡ヲ保持スルコトニ注意スルヲ要ス、而シテ此衛兵ハ諸兵種混同ノ舍營ニ於テハ通常歩兵隊ヨリ出シ之ニ喇叭手一人ヲ屬スヘシ外營兵ハ小哨勤務ノ規定ニ從ヒ動作スルモノトス

第百三十四、軍機ヲ保護シ間諜ヲ防キ衛生ヲ監督シ安寧秩序ヲ維持スル爲メ各舍營區毎ニ一ノ内衛兵ヲ設置ス而シテ其勤務ハ舍營司令之ヲ規定スルモノニシテ就中住民ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ公示スルモノトス

諸兵種混同シテ一地ニ舍營スルトキハ内衛兵ハ通常主トシテ歩兵ヲ以テ之ニ充テ其人員ハ哨所ノ數及巡察ニ要スル人員ニ應シテ之ヲ定メ而シテ之ニ一人ノ喇叭手ヲ屬ス

行軍舍營ニ在リテハ内衛兵ノ人員ヲ成ヘク寡少ナラシムルヲ要スヘシト雖モ居民ノ舉動疑ハシキトキハ其人員ヲ衆多ニシ又要スレハ内衛兵ノ箇數ヲ増加スヘシ然ルトキハ各衛兵ノ監視及警戒スヘキ地區ヲ明瞭ニ畫定スルヲ要ス

内衛兵ハ衛戍勤務ノ規則ニ從ヒ動作スルモノトス
小部隊ニ在リテハ特ニ外衛兵ヲ設ケス内衛兵ヲシテ舍營地外部ノ警戒ヲモ擔任セシムルコトヲ得ヘシ

第三百三十五、警急舍營ハ勉メテ建制部隊毎ニ一家屋ニ舍營シ服裝ヲ整ヘ武器、裝具ヲ身邊ニ置キテ眠臥シ凡テ窓戸ヲ開キ各家屋ニ少クモ兵卒一人點燈シテ警戒ヲ爲ス馬匹モ亦此要領ニ從ヒ整頓シアルヲ

要ス

第三百三十六、凡テ警戒ヲ必要トスル舍營ニ於テハ各人ハ常ニ武器及裝具ヲ整頓シ置キ縱ヒ暗黒中ト雖速ニ武裝ヲ整ヘテ出發シ得ル如ク注意シアルヲ要ス又此ノ如キ場合ニ於テハ警報ノ外一切號音ヲ用フ可カラス

第三百三十七、警報ノ爲ニハ非常號音ヲ吹奏ス此號音ハ高級故參ノ將校或ハ舍營司令官之ヲ命スルモノトス若シ突然敵襲ヲ受ケ猶豫セハ危殆ニ陥ルヘキ場合ニハ各衛兵及各將校ハ身ヲ以テ責ニ任シ速ニ非常號音ヲ吹奏セシムルノ義務ヲ有ス又一部隊ヲ速ニ使用シ得ンカタメ號音ヲ用ユルコトナク警急集合ヲ爲サシムルコトアリ之カ爲ニハ豫メ其準備ヲ爲シ置クヲ要ス

警報アルトキ下士兵卒ハ武裝ヲ整備シ先ツ小隊（分隊）毎ニ集合シ然ル後歩兵ハ速ニ其中隊ノ集合地ニ集合シ更ニ其警急集合場ニ赴ク

カ若クハ各隊速ニ豫メ指示セラレタル地點ヲ守備ス騎兵ハ馬繫地ニ砲兵ハ其勤務ノ區分ニ從ヒ先ツ速ニ砲廠若クハ馬繫場ニ集リ武裝ヲ整備シタル後更ニ砲廠ニ集合シ機關銃隊ニ屬スル者ハ砲兵ニ準シテ動作シ工兵ハ警急集合場ニ輜重ハ車廠ニ集合シ衛兵ハ舍營司令官ヨリ受ケタル命令ニ從ヒテ動作ス

敵兵急ニ舍營地内ニ侵襲シ之カ爲メ其所屬部隊ニ合スル能ハサル者ハ各々其位置ニ於テ現在ノ人員協力シテ敵ニ當ルヘシ

第三節 露 營

第三百三十八、軍隊ノ休養上最モ露營地ニ必要ナル條件ハ良水ヲ得ルコト容易且ツ十分ナルト其地ノ乾燥ナルト風雨ノ障蔽ヲ得ルトニ在リ凡テ健康ニ害アル地ノ露營ハ其兵員ヲ損耗スルコト戰鬪ニ於ケルヨリモ甚シキコトアリ一般ニ乾燥ナル土地或ハ大樹ノ林ハ概ネ露營地ニ適當スルモノトス之ニ反シ低地ニ在ル草地及濕地ハ健康ニ害アル

ヲ以テ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス

第三百三十九、凡テ露營ノ規定ハ幕營及廠營ニモ亦之ヲ適用ス

第三百四十、各露營地ニ於テ高級故參ノ將校ハ即チ露營司令官トス

第三百四十一、露營司令官ヲ補佐スル爲メ舍營ノ規定ニ準シ日直將校等ヲ命ス、此將校等ヲ名ケテ露營日直將校及部隊日直將校(下士)ト謂フ

第三百四十二、沍寒ノ季節ニ際シ露營ヲ爲ストキハ殊ニ防寒ノ法ニ顧慮スルヲ要ス之カ爲メ天幕其他木材、樹枝等ヲ用ヒテ急造掩蔽ヲ造リ或ハ土質之ヲ許セハ土地ヲ掘開シテ座床ヲ低ウシ其土壤ヲ周圍ニ積ミ以テ寒氣ヲ防クヲ可トス縱ヒ天幕ヲ用フル時ト雖モ土石若クハ雪ヲ以テ圍壁ヲ築クハ防寒ノ爲メ特ニ必要トス

第三百四十三、露營中下士兵卒ハ上官來ルモ其言辭ニ接スルカ或ハ招呼セラレタル時ノ外依然其業務ニ從事シ又ハ休憩シアルヘシ

露營ニ於テ軍隊ヲ呼集又ハ點呼スル際ニハ通常將校ハ力ヲ帶ヒ下士兵卒ハ武器ヲ携フルコトナシ而シテ呼集若クハ點呼及勤務ニ出ツル爲メ整列スルハ集合場若クハ露營前面ノ地ニ於テスルモノトス

第百四十四、敵ニ接近セルトキハ露營地直接警戒ノ爲メ外衛兵ヲ配置ス此衛兵ハ舍營外衛兵ニ關スル規定ヲ適用スヘシ

第百四十五、内衛兵ハ各隊（歩兵、工兵ハ大隊、騎兵ハ聯（中）隊、砲兵ハ中隊）毎ニ設クルモノニシテ其兵員ハ所要ノ哨兵數ニ從フモノトス而シテ其哨兵ハ通常隊長ノ所在（軍旗ノ歩哨ヲ兼ヌ）及銃前並行李ノ位置ニ置クモノトス

内衛兵ハ衛戍勤務ノ規則ニ從ヒ動作スルモノトス但シ此衛兵及哨兵ハ敬禮ヲ行フコトナシ

第百四十六、警報アルトキ（不意ニ敵襲ヲ受ケタル時等）ハ歩兵、工兵ハ各自速ニ背囊ヲ負ヒ又銃線ニ集合ス

外衛兵ハ更ニ命令ヲ受クル迄其位置ヲ固守スヘシ

内衛兵ハ軍隊ノ遺セシ材料ヲ監視ス若シ突然出發シタル時ニ方リテハ此材料運搬ノ準備整ヒタル後始メテ軍隊ニ追及スヘシ

第百四十七、出發ニ際シテハ其直前ニ於テ盡ク火ヲ滅シ衛兵（敵ニ對シ須要ナル警戒ハ之ヲ保存シ）ハ各々其所屬隊ニ復歸スルモノトス

第四節 村落露營

第百四十八、凡テ村落内ニ宿營スル部隊ハ其警戒法及内部ノ勤務ヲ舍營ニ準シテ規定シ村落外ニ露營スル部隊ハ露營ノ爲メ定メタル方法ニ從フヘシ

第六章 行李輜重

第百四十九、行李ハ通常小行李及大行李ニ分チ小行李ハ戰鬥間必要ノ

物品ヲ積載シ大行李ハ主トシテ宿營間必要ノ物品ヲ積載スルモノトス

第百五十、各部隊ノ行李ハ概ネ左ノ順序ヲ以テ行進スルモノトス

小行李。副馬、衛生材料、彈藥、歩兵器具。工兵隊器材。通信器材
豫備車輛、豫備鞍馬。

大行李。騎兵破壞器具、工兵隊器材、荷物。金櫃、糧秣、職工具、
輕重携行器具。豫備踏鐵、踏鐵工具、豫備被服。炊具。豫備車輛、
豫備鞍馬。

聯(大)隊本部ノ行李ハ通常第一大(中)隊ノ行李ニ合ス

第百五十一。行軍中一縱隊ニ屬スル輜重ノ全部ハ相合シテ通常二梯隊
ト爲リ適當ノ距離ヲ取リ之ニ跟隨スルモノトス

第七章 給養

第百五十二、戰地ニ於ケル人馬ノ給養ハ軍隊ノ携行スル糧秣(各自携帶

及大行李、糧秣)倉庫ノ糧秣若クハ部隊ノ直接ニ購買、徵發セル糧秣
列ニ積載スル糧秣)ニ依リ又稀ニ舍主ノ供給スル糧秣ニ依リ之ヲ行フ

第百五十三、出征軍ニ屬スル軍人軍屬ノ糧食一日分ノ定量ハ精米四合
五勺、挽割麥一合九勺及罐詰肉四〇匁、食鹽三匁、醬油「エキス」五
匁、其他野菜類、漬物類、調味品等若干トス

第百五十四、携帶糧秣(携帶口糧)ハ軍隊出征ノ時ヨリ各自携帶スル所ノ
豫備糧秣ニシテ終始必ス携帶スヘキモノトス

第百五十五、携帶口糧ハ各人精米一日分(合六)(甲)乾麵麩一日分(一八)
(乙)及副食物(罐詰肉四〇匁(但シ騎兵及之ト行動ヲ共ニスル部隊ノ乘馬者ハ二〇匁、食鹽六匁)ニシテ徒歩者ニ在リ
テハ之ヲ背囊(脊負袋)ニ乘馬者ニ在リテハ之ヲ鞍囊ニ收容ス

第百五十六、炊爨ハ軍隊行動間ニ在リテハ主トシテ飯盒ニ依リ永キ駐
軍間ニ在リテハ勉メテ地方炊具ヲ利用スルモノトス而シテ大行李ニ

有スル炊具ハ軍隊行動間ニ在リテハ警戒隊等ニシテ合同炊爨ヲ必要トスルモノ若クハ本隊中飯盒炊爨ニ便ナラサル部隊ノ使用ニ供シ永キ駐軍間ニ在リテハ地方炊具ノ不足ヲ補フ爲メ使用スルモノトス飯盒炊爨ヲ行フ場合ニ於テハ之ヲ各兵ノ自由ニ委スルコトナク各部隊長ハ必要ノ規定ヲ設ケ又速ニ井泉ヲ配當シ燃料ヲ分配シ以テ炊爨ノ爲メ戰備ノ完全ヲ缺キ若クハ混雜ヲ惹起スル等ノ虞ナカラシムルヲ要ス、警戒隊等ニ於テハ特ニ此注意ヲ必要トス

第百五十七、生獸ハ屠殺前少クモ二、三時間ノ休息ヲ與ヘ且ツ其肉ハ氣候ノ寒暖ニ依リ斟酌ヲ要スルモ春秋ノ候ニ在リテハ通常屠殺後二十四時間ヲ經テ用フルヲ可トス

第八章 衛生

第百五十八、各隊ニハ衛生勤務ノ人員ノ即チ軍醫、看護長、上等看護

卒ヲ屬ス又歩兵及砲兵中隊ノ兵卒中擔架術ノ教育ヲ受ケタル者アリ而シテ歩兵隊ニ在リテハ隊繙帶所ノ開設ニ際シ此兵卒ニ補助擔架卒ヲ命シ砲兵隊ニ在リテハ歩兵隊ニ準シ必要ニ應シテ之ヲ使用スルモノトス

第百五十九、將校以下凡テ其上衣ノ左裾裏ニ繙帶包ヲ納ル、モノトス第百六十、戰鬪間多數ノ傷者ヲ生スルニ至ルモ衛生隊未タ到著セサルカ或ハ遠隔シアルトキハ歩兵隊ハ直ニ隊附衛生部員及衛生材料ヲ用ヒテ隊繙帶所ヲ設ク

第百六十一、補助擔架卒ハ其銃ト背囊トヲ隊繙帶所ニ置キ白布ヲ右ノ上膊ニ纏ヒ擔架及繙帶囊ヲ携ヘ戰線ニ前進シ傷者ノ運搬及救護ニ從事ス

第百六十二、衛生隊ハ戰鬪間ニ於テ初療ヲ完全ナラシメンカ爲メ繙帶所ヲ設置ス

第六十三、凡テ隊纒帶所ハ赤十字旗ト國旗トヲ併セ植テ其位置ヲ標ス而シテ夜間ハ更ニ赤十字燈ヲ掲ク

第六十四、野戰病院ハ各纒帶所及直ニ戰線ヨリ來ル傷者、病者ヲ收療スル所ヲ云フ

第六十五、戰線ニ於テ戰友負傷スルトキ列中ニ在ル下士兵卒ハ將校ノ命令アルニ非サレハ傷者ヲ送致スルコトニ關ス可カラス而シテ之ヲ送致セシトキハ躊躇セス戰線ニ復歸シ其送致ノ命ヲ受ケタル上官ニ申告スヘシ又輕傷者ハ附近ニ在ル指揮官ノ許可ヲ受ケタル後其彈藥ヲ戰友ニ交付シ銃ヲ携ヘテ獨リ自ラ退クヘシ

第六十六、陸軍官憲ノ認許ニ依リ衛生勤務ニ關係スル旗、臂章及一切ノ材料ニハ白地ニ赤十字ノ徽章ヲ表出ス

第九章 彈藥補充

第六十七、彈藥ヲ射盡セハ步兵ハ其主要ノ戰鬪力ヲ失ヒ砲兵ハ一時全ク其價值ヲ失フヘシ故ニ戰鬪間及戰鬪後適當ノ時ニ於テ彈藥ヲ補充スルハ各指揮官重要ノ任務トス

第十章 通信

第六十八、軍隊間ノ連絡ニハ主トシテ電話及視號通信ヲ用ヒ高等司令部間ノ連絡ニハ主トシテ有線電信ヲ用フルヲ特ニ有利トスルコトアリ

第六十九、電信通信所ニハ白地ニ赤色ノ□ヲ描ケル標旗ヲ掲ケ夜間ハ赤色ノ標燈ヲ以テ認知シ易カラシムヘシ又電話及視號通信所ニハ適當ナル方法ニ依リ之ヲ標示スルモノトス

第七十、視號ニ通信ノ主ナルモノハ手旗、單旗及同光通信ニシテ多クハ有線通信ノ補助トシテ之ヲ使用ス

第十一章 鐵道

第七十一、各列車ニ於ケル輸送部隊ノ高級古參ノ將校（將校相等官ヲ長トスル部隊ノミヲ輸送スル場合ニ在リテハ當該部隊長）ハ輸送指揮官トナリ乗下車ノ指揮及輸送中ノ取締ニ任スルモノトス

第七十二、軍用列車ハ遅クモ發車五分前ニ於テ搭載ヲ終ルヲ要ス

第七十三、搭載掛リタル將校下士ハ助手及使役兵ヲ指揮シ人馬材料ヲ搭載位置ニ誘導シ其配當車輛ニ應シテ區分シ適當ノ位置ニ配列シ同時若クハ逐次ニ搭載ス但シ下士兵卒ノ乗車ニ關シテ輸送指揮官自ラ其號令（號音）ヲ下スコトアリ

第七十四、將校下士兵卒ハ客車若クハ有蓋貨車ニ乗車セシム然レトモ已ムヲ得サルトキハ無蓋貨車ヲ用フルコトアリ

第七十五、下士兵卒ハ輸送指揮官若クハ搭載掛ノ下ス「乗車」ノ號

令若クハ「前へ」ノ號音（停車場内ニ於テハ小笛ヲ用フルヲ禁ス）ニ依リ靜肅迅速ニ且ツ順序正シク乗車スルモノトス而シテ乗車前背囊（脊負袋）ヲ脱ス武器及脱シタル裝具ハ車輛ノ種類、入口ノ大小及車内設備ノ如何ニ應シ或ハ各人携帶乗車シ或ハ使役兵ヲ用ヒテ先ツ之ヲ搭載ス

輸送指揮官ハ列車中ノ車ヲ各將校ニ配當シ輸送中ノカ監視ニ任セシム此將校ハ配當セラレタル各車若クハ其車中ノ各室毎ニ高級古參者ヲ以テ班長トナシ之ニ取締ヲ命シ又下士兵卒ニ各自ノ乗車セル車輛ヲ記憶セシムヘシ

第七十六、軍用列車下車停車場ニ到着スレハ輸送指揮官ハ停車場司令官ノ規定スル所ニ基キ下車ニ關スル命令ヲ下ス而シテ卸下掛ハ此命令ニ從ヒ各々擔任スル卸下ヲ實施ス

將校、衛兵及使役兵ヲ第一ニ下車セシム此使役兵（要スルトキハ急

造斜坂ノ材料ヲ携フハ馬匹及材料ヲ卸スヘキ位置ニ到ラシメ而シテ後「下車」ノ號令若クハ「前へ」ノ號音ヲ以テ下士兵卒ヲ下車セシム

第七十七、列車運行中下士兵卒ハ一般鐵道ノ規則ヲ守リ濫ニ其位置ヲ離ル可カラス又車輛ノ戸口或ハ側板上ニ踞スルヲ禁ス其他馬匹及藪秣、彈藥等火災ノ虞アル物品ヲ載セタル車中ニ於テ喫煙シ或ハ擅ニ點火スルヲ禁ス又馬運車ニ於ケル燈火ニ注意スヘシ

非常ノ危害（車輛ノ折損、火災、列車ノ分離、脫線等ニ際シテハ先ツ之ヲ發見シタル者ハ何人ヲ論セス鐵道係員ノ注意ヲ喚起スルノ手段ヲ採ルヘシ

車窓外ニ赤布或ハ旗類ヲ出シ又ハ手腕ヲ振ルカ如キ動作ハ危害ノ信號ト誤認セラル、ヲ以テ濫ニ之ヲ行フ可カラス

第七十八、軍用列車ニ於テ兵員全般ニ途中下車ヲ許スハ十分間以上

停車スル停車場ニ限モルトノス

第七十九、下車ヲ許スヘキ停車場ニ到着シタルトキハ輸送指揮官ハ鐵道係員ニ就テ直ニ下車セシメ得ヘキヤ發着時刻ノ變更ナキヤ等ヲ確メ先ツ各車監視將校ヲシテ停車時間再ヒ乗車スヘキ時刻及其他ノ要項ヲ指示セシメ然ル後號令若クハ號音ヲ以テ下車セシム若シ停車場衛兵ノ備ナキ場合ニ於テハ要スレハ先ツ衛兵ヲ下車セシムヘシ再ヒ乗車スヘキ時刻ニ至レハ輸送指揮官ハ乗車ノ爲メノ號令若クハ號音ヲ發ス

普通列車ヲ用フル輸送ニ於テハ一般旅客ノ下車シ得ル停車場ニテ下車スルコトヲ得

第十一章 船舶輸送

第八十一、船舶ヲ以テ輸送スヘキ部隊ノ高級故參ノ將校（將校相當

官ヲ長トスル部隊ノミヲ輸送スル場合ニ在リテハ當該部隊長ハ輸送指揮官ト爲リ乗船上陸ノ指揮及船内ノ秩序維持ニ任スルモノトス

船舶ニハ所要ニ應シ一名ノ監督將校ヲ乘込マシメ船員ノ勤務ヲ監督シ且ツ艦船トノ連絡ヲ掌ラシム此將校ニハ信號兵ヲ附スルモノトス
 第百八十一、船舶棧橋等ニ接着シタルトキハ下士兵卒ハ順序ニ從ヒ靜肅ニ乗船スヘシ若シ舢舨ヲ用フルトキハ將校若クハ下士ノ誘導ニ依リ銃ヲ提ケテ之ニ乘リ込ミ順序ニ遠キ所ヨリ舢舨部ニ面シテ位置シ前後左右ノ間隙ヲ密縮シ漕航中ハ靜肅ナルヲ要ス而シテ海上危難ノ虞アルトキハ豫メ背囊ヲ卸シ且ツ踞坐セシムルヲ可トス
 下士兵卒乗船セハ各自ノ座席ニ着キ銃ハ劍ト共ニ之ヲ座側ニ置キ背囊ハ之ヲ結束シテ枕ニスル如ク置クヘシ但シ外套ハ常ニ結束シアルヲ要セス使用セサルトキハ之ヲ疊ミ背囊上ニ置クヘシ

第百八十二、乗船完結セハ輸送指揮官ハ船長ニ通報シ船内ヲ巡視シ人馬材料搭載ノ景況ヲ検査スヘシ下士兵卒ハ此検査終ル迄座席ニ在リ且ツ背囊等ヲ開ク可カラス

第百八十三、上陸ノ順序ハ通常乗船ト反對ニ行フモノトス

第百八十四、諸兵種ヲ一船舶ニ搭載セシトキハ成ルヘク歩兵ヲシテ第一ニ上陸セシメ騎兵(時トシテハ騎兵ノ一部ヲ最先ニ上陸セシムルヲ要スルコトアリ)砲兵等之ニ次キ最後ニ行李ヲ揚陸スルモノトス但シ監視ノ爲メ將校一人ニ所要ノ下士兵卒ヲ附シ船中ニ殘シ其最終ノ行李ト共ニ上陸セシムヘシ
 時宜ニ依リ上陸點ヲ準備スル爲メ工兵ヲ最先ニ上陸セシムルコトアリ

第百八十五、輸送指揮官ハ船内ニ於ケル軍隊ノ諸勤務、日課時限及糧秣分配等ニ關シ船長ト協議シテ之ヲ定メ所要ノ命令ヲ下ス、各船舶

ニ日直將校一人同下士若干人（通常各船室ニ一人）ヲ置キ且ツ衛兵ヲ備フルモノトス

日直將校ハ日直下士及衛兵ノ長官ニシテ哨兵ヲ配置シ且ツ時々船内ヲ巡察シテ輸送指揮官ノ命令ヲ實施シ特ニ火災及衛生上ノ取締ニ任スルモノトス

前項ノ諸勤務ニ服スルモノハ別命アルニ非サレハ銃ヲ携帯セス單ニ銃劍若クハ刀ヲ帶フルモノトス

第百八十六、船中ニ於テ一般ニ服膺スヘキ件概ネ左ノ如シ

寸燐等ノ發火器ヲ携帯セサルコト

喫烟、飲食、洗面等ハ必ス指定ノ場所ト時間トニ於テシ又船内ヲ汚穢ナラシメサルコト

清水ノ使用ヲ節約スルコト

船橋或ハ前樓ニ上リ舵室、機關室及庖厨ニ入り又羅針盤ノ周圍及階

梯ノ近傍ニ佇立ス可カラサルコト

私ニ燈火ヲ點シ又ハ所定ノ燈火ヲ他ニ持チ行ク可カラサルコト

第百八十七、失火、坐礁、衝突等ノ場合ニ在リテハ將校以下ハ極メテ

靜肅ニ所定ノ位置ニ在リテ船員ノ動作ヲ妨碍セサルヲ緊要トス唯輸

送指揮官ヨリ特ニ指示セラレタル者ノミ船員ヲ補助スヘシ

第百八十八、船中ニ於ケル人馬ノ給養ハ左ニ掲クル中ノ一ニ依リ之ヲ

行フモノニシテ其何レニ依ルヘキカハ輸送ヲ命スル長官之ヲ定ム

人馬共ニ船主ノ供給ニ依ル

人員ハ船主ノ供給ニ依リ馬匹ハ現品官給ニ依ル

人馬共ニ現品官給ニ依ル

第十二章 兵 站

第百八十九、兵站勤務ハ主トシテ野戰軍ノ作戰力ヲ保持スルニ必要ナ

ル人馬物件ノ前送作戰ニ必要ナキ人馬物件ノ後送、通行人馬ノ宿泊及給養、野戰軍ノ背後連絡線ノ確保、民政等ヲ包含ス

第百九十、兵站線路ハ内地留守部隊所在地ニ發シ野戰軍ノ所在地ニ至ルモノトス而シテ陸路、鐵道、航行シ得ヘキ水路ハ必要ニ應シ兵站線路トシテ之ヲ使用スルモノトス

兵站線路上ニハ通常兵站基地、集積基地、集積主地、兵站主地及兵站地ヲ設ケ之ニ兵站業務ニ必要ナル諸機關ヲ備フ

第百九十一、兵站基地ハ各師管ニ一個ヲ設クルモノニシテ同地ニ兵站基地、司令部ヲ置キ當該師管内所在ノ留守部隊ヨリ出征部隊ニ送致スヘキ物件ヲ蒐集シ集積基地ヲ經テ之ヲ發送シ又出征部隊ヨリ還送シ來ルモノヲ各々其目的地ニ分送スル業務ニ任ス

第百九十二、集積基地ハ内地主要ノ地點ニ設クルモノニシテ同地ニ集積基地諸廠其他必要ノ機關ヲ置キ補充諸廠及兵站基地司令部ヨリ出

征部隊ニ輸送スヘキ軍需品ヲ集積シ需要ノ緩急ヲ顧慮シテ之ヲ戰地ニ輸送シ又出征部隊ヨリ還送シ來ルモノヲ各々其目的地ニ分送スル業務ニ任ス

第百九十三、集積主地ハ戰地主要ノ地點ニ設クルモノニシテ同地ニ集積主地諸廠其他必要ノ機關ヲ置キ集積基地ヨリ出征部隊ニ輸送スヘキ軍需品ヲ集積シ需要ノ緩急ヲ顧慮シテ之ヲ兵站主地ニ輸送シ又出征部隊ヨリ還送シ來ルモノヲ收容整理シ或ハ之ヲ集積基地ニ後送スル業務ニ任ス

第百九十四、兵站主地ハ通常兵站監部ノ位置スル所ニシテ野戰軍ノ兵站管区内ニ於テ交通便利ナル地ニ設ク而シテ同地ニ野戰諸廠其他必要ノ機關ヲ置キ軍需品ノ蓄積、整理、前送、後送、分配等ノ業務ニ任ス

第百九十五、兵站地ハ兵站司令部若クハ同支部ノ位置スル所ニシテ陸

地兵站線路上適當ノ距離ヲ間シテ之ヲ設ケ往復人馬ノ宿泊、給養及諸物件ノ遞送業務ニ任ス

第十四章 憲兵

等百九十六、憲兵ハ野戰軍ノ所在地及兵站地域ニ於テ各兵ノ不正ノ徵發及掠奪其他諸犯則者ヲ取締リ道路ノ交通ヲ自在ナラシメ酒保及用達人ヲ監視シ證憑ナキ單獨ノ軍人、疑ハシキ住民、遲留兵及敵ノ脫走兵等ヲ捕ヘテ近傍ノ軍隊若クハ司令部ニ送致シ其他旅舍、郵便局停車場、倉庫等凡テ衆人共用ノ家屋ヲ監察シ電線及鐵道ヲ保護シ敵意ヲ有スル人民ヲ抑壓シ其武器ヲ褫奪シ間諜ヲ搜索スル等ノコトヲ以テ任トス

第十五章 戰鬪詳報、陣中日誌、留守日誌

第一節 戰鬪詳報

第百九十七、戰鬪詳報ノ目的ハ高級指揮官ヲシテ爾後ノ作戰ヲ正確適當ニ計畫セシメンカ爲メ必要ナル材料ヲ十分收領セシメ且ツ將來ニ於ケル戰鬪ノ參考ト爲サンカ爲メ廣ク實戰ニ於ケル經驗ヲ集録スルニ在リ

第二節 陣中日誌、留守日誌

第百九十八、陣中日誌及留守日誌ヲ作ルノ目的ハ左ノ二項ニ在リ

甲、各部隊若クハ各人ノ經歷及遭遇シタル實況並所見ヲ記載シ一ニハ戰史ノ用ニ資シ一ニハ他日各人ノ勤務及功績ヲ銓衡スルノ參考ニ供ス

乙、編制、教育、補充、給養、衛生、武器、彈藥、器具、材料、被服、裝具等凡テ軍事ニ關スル事物ノ經驗ヲ將來改良ノ資料ト爲ス

上下等兵學科教程陣中要務令終



行 所

軍 需 商 會

東京市牛込區若松町百五十番地(陸軍戶山學校前)

電話番町一四七一番
發電略號(一四七一)
振替貯金口座東京五四一六番



大正三年七月十二日印刷
大正三年七月十八日發行

下等兵學科教程追録第五奧附
正價 金 四 錢

著者兼發行者 東京市牛込區若松町百五十番地 上田 賴 三

印刷者 東京市芝區櫻川町十七番地 山田 三 次 郎

印刷所 東京市芝區櫻川町十七番地 山田 活 版 所

新刊廣告

●陣中要務令之研究 全壹冊

●下士上等兵用陣中要務問答 全壹冊

●精神的衛兵步哨教育 全壹冊

●軍隊供用被服着裝使用及保存法兵營建造物保存法 全壹冊

●供用兵器保存ニ關スル參考書 全壹冊

●內務ニ關スル心得 全壹冊

正價金四拾五錢ノ處
特價金參拾五錢
郵税金六錢

正價金拾參錢
郵税金貳錢

正價金五錢
郵税金貳錢

正價金六錢
郵税金貳錢

正價金拾貳錢
郵税金貳錢

正價金貳拾五錢
郵税金四錢

終